

会議要旨書

会議名	令和7年度第3回三鷹市文化財保護審議会定例会
日時	令和7年10月20日(月)午後6時30分～8時30分
場所	三鷹市教育センター2階 第二中研修室
出席委員 (7人)	中野達哉、濱野周泰、小林謙一、福野明子、神野善治、初田香成、日高慎
欠席委員 (1人)	M・ウィリアム スティール
行政職員 (7人)	スポーツと文化部長 大朝摶子、スポーツと文化部調整担当部長 平山寛、生涯学習課長 八木隆、同係長 森宏樹、同主査 下原裕司、同主任 齊藤満里奈、同主事 中峰結
会議の公開・非公開	公開
傍聴人数	1人
1 開会	
事務局より、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき会議の公開、会議録の作成、公開についての説明及び配付資料の確認を行った。	
2 事業報告と計画について	
事務局より、令和7年度7月以降の事業報告と今後の計画について説明を行った。	
【A委員】学校3部制における生涯学習講座について伺いたい。	
【大朝部長】三鷹市教育委員会では、学校教育を1部、放課後活動を2部、こどもたちが使わない夜間や休日を3部と位置付けて、学校という施設が、みんなで使う寄り合い場、コモンズのような形で運営していくことを進めている。	
地域の方による利用のほか、市の事業を学校で開催することで、自分の住む地域で、自分たちの地域を学び、それをさらに他の方に伝えてもらいたいと思い、地域の方と連携しながら、学校を核とする新しいコミュニティを創造するための事業に取り組んでいるところである。	
【A委員】水車・古民家まつりでの歌舞伎演目「助六」は古民家で行ったのか。	
【大朝部長】そうである。本格的な隈取りと着付け、古民家で育てた紫草で江戸紫に染色した鉢巻を頭に巻いて、古民家の座敷を舞台に、縁側に向けて助六の演目を行った。客席は縁側側に椅子を置き、鑑賞していただいた。舞台上では、隈取り化粧の要所の実演を行い、その後歌舞伎の見栄を切る、見せ場のところをみていただいた。大沢の日本舞踊の師匠を講師に、熱の入った指導をいただき、受講生もそれに応えた演技を行い、素晴らしい演目になったと感じた。	
3 三鷹市史編さん事業について	
事務局より、三鷹市史編さん事業について説明を行った。	
【A委員】本審議会委員の皆様も、市史編さんに関わる方が多いかと思うので、事業の具体的な話は編さん委員会にて行われことになるのだろうが、この場でもご質問等あればお願ひします。	
まず私から、「文学・文芸」はどのようなことを想定しているのか。	

【大朝部長】文学史についてはこれまでまとめてきているが、三鷹市史編さんの視点からの調査研究は行われていないので、今回それを行う計画である。

【B委員】2点伺いたい。1点目について、市史編さん委員会と編集会議が両者で情報提供するあるが、具体的にどのように進めるイメージなのか。2点目について、奥付の著者・編者の書き方はどうされるのか。他市等事例では、著者は「市史編さん委員会」となることが多いので、実際の執筆者の文責の記載がどうなるのか気になった。

【八木課長】1点目について、市史編さん委員会で全体の方向性を協議・決定し、それが編集会議に共有され、共有された内容をもとに各部会にて作業を進めていただき、そして各部会の情報を市史編さん委員会に共有する、といったイメージである。

【大朝部長】2点目については、まだ明確に決めていないためこれから整理していきたいと思っているが、調査者含め関わった方々の氏名を明記していくことになるだろう。

【C委員】資料を見ると、専門部会は情報提供という役目で、「編集会議」は原稿を書かない、というように読める。

【事務局】ここでの情報提供は、市史編さん委員会、編集会議のそれぞれの会議を両方うまく円滑に行うためのものと理解している。図内に編集会議が調査・研究・執筆等と明記しているが、分かりにくければ書き方を工夫したい。部会の先生方に基本的な調査・研究及び原稿執筆をお願いし、部会長による編集会議が行われることを想定しているところである。

【大朝部長】本図は、前回定例会での委員の皆様からのご意見をもとに作図し直したものであり、市史編さん委員会と編集会議での2つの会議の間できちんと情報共有を行うという関係性を示している。編集会議の先生方、部会の先生方が執筆をなさらないということではなく、そのような趣旨ではない。

一方で、部会での活動は、市史編さん基本方針の決定を待たず、すでに一部進めていただいているところである。このため、本図は概念図であり、各役割についても並行して検討を進め、作業の進み行きに合わせ、固まった段階で改めてお示しさせていただきたいと思っている。

【A委員】市史編さん委員会と編集会議の間の情報交換みたいな形だろう。全体の市の方針がこうだよという話を市史編さん委員会から編集会議に伝え、編集会議のほうでは、ここまで進んでいましたとかということを報告するようなイメージだと思っている。

また、奥付については「市史編さん委員会」での記載が多いが、市史編さん委員会と編集会議の委員全員の氏名を書くのは基本で、執筆担当は各章に記載するのが当たり前なので、そういったやり方でよいと思う。

【大朝部長】ご協力いただいた方については当然記すべきだと思っている。

【D委員】市史編さん委員会、編集会議、部会、専門委員、調査員など様々な名称が出てくるので、丁寧な説明が必要だと感じた。

市史編さん委員会には、編集会議の各部会7人が入っているということか。

【大朝部長】全員ではないが、編集会議を代表するかたちで数名が編さん委員会に入っている。

【C委員】デジタルコンテンツを主体とした市史を作るということだが、1冊600頁として、各部100頁だと、限られた情報しか掲載できず、調査員たちのモチベーションが下がる可能性がある。別の媒体でよいので、調査員それぞれの研究成果をまとめられるものを作成し、公開できるようにしてほしい。

【A委員】「市史研究」のような、研究成果を少しづつまとめて小冊子にできると、若い方の業績にもなるだろう。

【大朝部長】市史編さんは10年計画なので、途中経過をきちんと定期的に報告していくことは重要だと思っている。

【E委員】市史編さん事業は、市民の皆さんと一緒に三鷹の地の価値を高めるということであり、そういったことをやっていく過程自体が大事である。

市史編さん事業を進めていくのに大切なのは体制と場所。市史編さん室という看板がつけられた部屋があって、そこに情報が集まってくるという体制と場所が必要だろう。

成果として、デジタルも必要だが紙媒体も必要だと思う。

原稿を作成していくにあたり、文章量、写真の数などの方向性がわからないと書けないし、書いたものを大幅修正される可能性があるのは問題がある。

【大朝部長】体制と場所については、現在協議を進めているところである。

4 その他

次回定例会（3月）の日程については、改めて調整を行う。

【A委員】以上をもって、令和7年度第3回三鷹市文化財保護審議会定例会を終了する。